

4 各教科等の指導のポイント

国語

言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくり

「言葉による見方・考え方」を働かせるとは

対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

授業づくりのポイント

※数字は単元例と対応

- ① 育成を目指す資質・能力や指導事項に基づいて単元の目標及び評価規準を設定し、学習課題等を整合させる。【ねらい】
- ② 学習課題の解決に向け、児童生徒が見通しをもち、粘り強く試行錯誤を重ね、資質・能力を育成できる言語活動を構想する。【言語活動】
- ③ 目的に応じて学校図書館の機能やICTを効果的に活用し、主体的な学びにつながる学習活動を工夫する。【学校図書館・ICT】
- ④ 児童生徒が学んできたことや身に付けた力を想起できる場面を適宜設定する。【既習事項】
- ⑤ 児童生徒が言葉について何が分かって、何が分かっていないかや、単元の学習課題の解決に向けて何が必要かなどの学習の進捗状況を自覚し、次の学びへつなげることができる振り返りとなるように、振り返りの場面や内容等を工夫する。【振り返り】
- ⑥ 言葉の解釈や表現する内容について、「言葉による見方・考え方」を働かせ、互いの思いや考えを伝え合い、比較・検討して吟味することで、考えを広げたり深めたりする学習活動を設定する。【令和2年度 南の要覧】p12参照 ▶ 【見方・考え方】

育成したい資質・能力を身に付けるために適切な言語活動を設定した単元例

中学校第1学年 重点内容：A 話すこと・聞くこと ウ

単元名「新たに知った言葉を紹介する～聞き手を意識して話す～」

単元名には、「本単元における課題解決的な言語活動」と「単元で育成を目指す資質・能力」を記載

◎ポイントの解説
◇授業づくりで確認する視点

- 1 単元の目標（一部）
相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等】A(1)ウ
- 2 本単元における言語活動
新たに知った言葉を紹介する。（関連：A(2)ア）
- 3 単元の評価規準（一部）【思考・判断・表現】
「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。（A(1)ウ）

◎資質・能力と目標や言語活動等が整合しているかを確認することが大切です。①②
◇学習課題が目標や評価規準、言語活動と整合しているか
<学習課題例>
相手の反応を踏まえたスピーチにするためには、どんな工夫をすればよいか

4 単元の流れ

時	学習活動	指導上の留意点
1	○学習のねらいや進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○*「語彙手帳」などから、自分が友達に紹介したい言葉を決める。	・各自で学習の進め方を考えることができるように、教師がスピーチのモデルを示す。 ・言葉を選ぶ際には、今回のスピーチの目的や場面、相手などにふさわしい言葉について確認しながら指導する。 「教師が教える場面」を適切に設定します。生徒に任せきりや教師の一方的な指導になっていません。
2・3	○表現の仕方の工夫について話し合う。 単なる活動で終わらないようにします。生徒から出てきそうな工夫を事前に想定して、話し合いを進めていますか。 ○スピーチの構想メモを作成する。 ○グループでスピーチの練習をする。	・特に意識させたい「相手の反応を踏まえながら表現を工夫する」ことをスピーチで発揮できるように、小学校での既習事項を想起し、どのようなことに気を付ければよいかを生徒自身が確認できるようにする。 ・ノートには、話の構成や要点、話し方の工夫などを記入することを指示し、読み上げるための原稿にならないように指導する。 ・タブレット端末でスピーチの様子を撮影し、映像を見て試行錯誤することができるようにする。③
4・5	○スピーチの発表会を行う。 ○振り返りをする。 ○新たに知った言葉と用例を「語彙手帳」に加える。	・各グループにホワイトボード等を用意し、話し手が自由に使用してスピーチができるようにする。 ・聞き手として、相手の反応を踏まえて話す工夫がどのように分かりやすさにつながっているか、話し手として、どのように分かりやすさにつながったかをノートにまとめるよう指示する。

◎資質・能力の育む適切な言語活動を設定します。生徒が行う言語活動を授業者が事前にシミュレーションすることで、次のことが明確になり、適切な指導につながります。②
◇資質・能力を身に付けるために有効な言語活動か
◇その言語活動を通して適切に評価することができるか
◇資質・能力に照らし合わせてどのような点に力を入れて指導すればよいか
◇授業のどの場面で生徒のどのような姿を見取ればよいか

◎前学年までに、どのような力を身に付けてきたかを授業者が把握し、身に付けた力を活用できる授業を構想することが大切です。④

◎振り返りの視点を明確にするとともに、単元のどこに振り返りの場面を設定するか、振り返る時間をどれくらい確保するか等、意図的な計画と工夫が必要です。⑤

*「語彙手帳」：日頃から、新しく知った語彙を書き留めている手帳（生徒手帳や筆箱に入るサイズの折本として作成）
<単元例の学習評価については、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語』p42～49参照>